1
2024
三重病院
ニュースレター
news letter vol.288

01 年頭のご挨拶：2024
02 新年のごあいさつ
03 新年のごあいさつ
04 新年のごあいさつ
05 新年のごあいさつ／世界糖尿病デー「令和5年度母子保健奨励賞を受賞しました」外来からのお知らせ
06 病院からのお願い 外来診察のご案内

年頭のご挨拶

国立病院機構三重病院　病院長　谷口　清州

2024年（令和6年）甲辰（きのえたつ）の始まりに際しましてご挨拶申し上げます。

辰年は物事が動く年だと言われるようですが、十二支の辰は生き物としては龍であり、中国の王朝においては皇帝の象徴でもあり、また皇帝がよい政治を行わなかった場合には地震を起こすとも言われています。最近よく地震が起こりますが、ひょっとしたら龍が慟哭しているのかもしれませんね。

さて、新型コロナウイルス感染症（Coronavirus Disease 2019: COVID-19）は、人口の多くが感染し、またワクチンにより免疫をつけ、かつウイルスの変異によりその流行はだいぶん落ち着いたかのようにみえますが、ウイルスは人類が身につけた免疫から逃れるように持続的に変異し、周期的な流行を繰り返しています。一方このパンデミックはこれまでに認識されつつも対応されて来なかった多くの健康危機管理上の課題を浮き彫りにしました。そのひとつに救急医療を始めとする医療の課題があります。

日本の医療は国民皆保険制度によって、① 国民全員を公的医療保険で保障し、② 医療機関を自由に選べ（フリーアクセス）、③ いつでも安い医療費で高度な医療を提供することを基本として、④皆保険を維持するため公費を投入しています。この制度はこれまでに日本国民の健康の維持のために大きく貢献して参りましたが、生産年齢人口の減少と医療費の増大、そして医療従事者への過重な負荷などによりいろいろと不都合なところが目立ち始め、そこに発生したパンデミックで一挙に顕在化した形となっています。日本の医療費は保険点数や薬価というもので支払われており、これは政府が決めていますので、基本的に政府が日本の医療を制御しています。より高い保険点数の治療が優先され、薬価が低くなればその薬は製造しても利益になりませんので当然製造量は減少します。いわゆる咳止め薬とかが足らなくなるのはこの理由です。つまり政府が医療費削減を考えた場合、それは民間の薬品会社の製造能力や医療機関のキャパシティに影響して、結果的に安価な薬品は数が足らなくなり、医療機関は病床数を減らし、医師数を減らして、多くの患者を少数の医療従事者が診療しなければならないので過重労働となり、いざという時には人手が足らない、薬が足らない、入院するベッドがないと言うことになっています。これは国民の健康にとって決して良いことではないでしょう。

辰年は世の中が大きく動くことが多いと言われますが、戦後79年、すでに世のなかは大きく変わっています。これまでの旧態依然たる政治・行政体制、そして漫然と行われてきた旧来の慣例や悪弊、既得権益などをすべて考え直していくことが必要な年だろうと思っています。我々は当院が地域の医療にどう貢献できるかを考えつつ、みなさまとともに、新たな一歩を踏み出せる一年となるよう努力していきたいと思います。Healthier and Happier New Year のために。